

別冊

令和7年10月30日(木)

第1回みえインバウンド誘客計画検討有識者会議

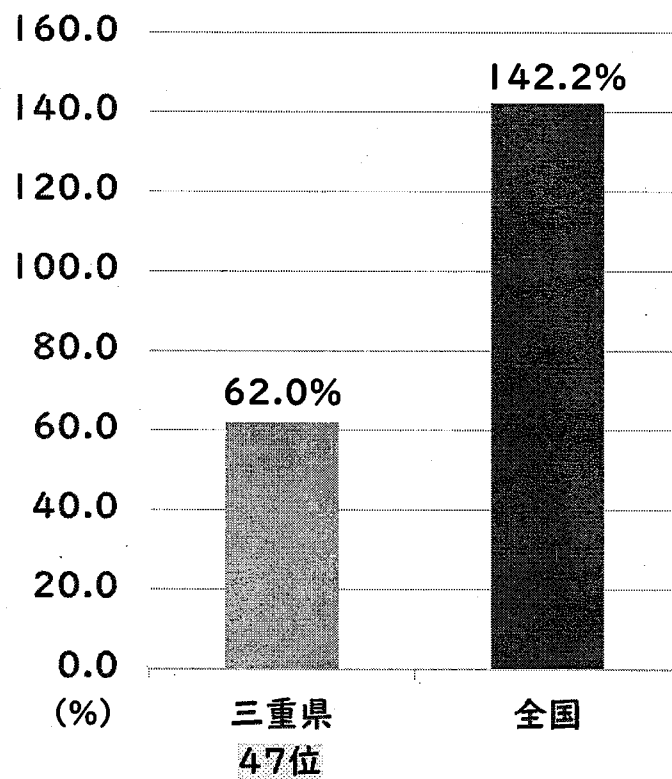
本県のインバウンドの現状と課題

三重県観光部

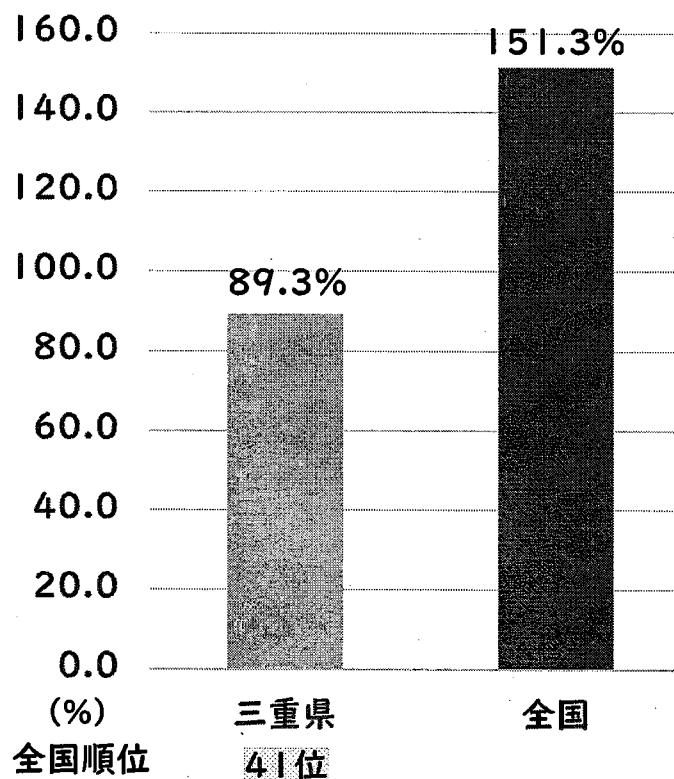
外国人延べ宿泊者の回復率（コロナ前との比較）

- 全国ではコロナ前の2019年と比べ回復している。
- 本県は回復が遅れており、2025年1～7月は89.6%であった。

2019年(1月～12月)と
2024年(1月～12月)の比較



2019年(1月～7月)と
2025年(1月～7月)の比較



【データ】
観光庁「宿泊旅行統計調査」より作成2025年は速報値、2019年、2024年は確定値

【全国】国・地域別延べ宿泊者数(2024年、2019年)

全国

○中国を除いて回復しており、特に韓国やアメリカ等が増加。

全国	2024年 宿泊者数(万人) [A]	構成比 (%)	2019年 宿泊者数(万人) [B]	構成比 (%)	増減数 [B] - [A]	増減率(%)
中国	2,519	18.2	2,985	29.5	▲466	▲15.6
台湾	1,841	13.3	1,347	13.3	494	36.6
韓国	1,800	13.0	972	9.6	828	85.2
アメリカ	1,449	10.5	728	7.2	721	99.0
香港	779	5.6	698	6.9	81	11.5
オーストラリア	566	4.1	307	3.0	259	84.5
シンガポール	414	3.0	245	2.4	169	68.7
タイ	383	2.8	360	3.6	23	6.3
イギリス	279	2.0	209	2.1	70	33.2
カナダ	238	1.7	113	1.1	125	109.6
フランス	219	1.6	156	1.5	63	39.9
ドイツ	196	1.4	115	1.1	81	70.6
フィリピン	193	1.4	117	1.2	76	65.5
インドネシア	185	1.3	137	1.4	48	34.9
マレーシア	179	1.3	136	1.3	43	31.4
イタリア	164	1.2	93	0.9	71	75.7
⋮			⋮			
インバウンド全体	13,853		10,131		3,722	36.7

【データ】観光庁「宿泊旅行統計調査」※従業員が10人以上施設の集計。

【三重県】の国・地域別延べ宿泊者数(2024年、2019年)

三重県

○中国のほか、タイ・韓国などで減少。一方、欧州を中心に回復している国もある。

三重県	2024年 宿泊者数(人) [A]	構成比 (%)	2019年 宿泊者数(人) [B]	構成比 (%)	増減数 [B]-[A]	増減率(%)
中国	38,160	17.8	154,490	43.8	▲116,330	▲75.3
台湾	36,190	16.8	40,050	11.4	▲3,860	▲9.6
香港	19,540	9.1	27,170	7.7	▲7,630	▲28.1
韓国	13,120	6.1	24,920	7.1	▲11,800	▲47.4
アメリカ	12,220	5.7	12,250	3.5	▲30	▲0.2
タイ	9,420	4.4	26,800	7.6	▲17,380	▲64.9
フランス	6,720	3.1	5,650	1.6	1,070	18.9
シンガポール	6,260	2.9	3,960	1.1	2,300	58.1
ドイツ	5,880	2.7	4,100	1.2	1,780	43.4
ベトナム	4,860	2.3	4,610	1.3	250	5.4
マレーシア	4,580	2.1	7,360	2.1	▲2,780	▲37.8
オーストラリア	4,070	1.9	2,780	0.8	1,290	46.4
イギリス	3,960	1.8	5,990	1.7	▲2,030	▲33.9
フィリピン	3,430	1.6	3,220	0.9	210	6.5
インドネシア	2,260	1.1	2,010	0.6	250	12.4
イタリア	2,070	1.0	2,920	0.8	▲850	▲29.1
⋮						
インバウンド全体	214,960		352,750		▲137,790	▲39.1

※従業員が9人未満の施設を含めた全体のインバウンド人数は241,130人。

【データ】観光庁「宿泊旅行統計調査」※従業員が10人以上施設の集計。

【全国】の国・地域別延べ宿泊者数(2025年、2019年 1~7月)

全国

○香港を除いて回復しており、特に欧米豪が増加している。

全国	2025年 宿泊者数(万人) [A]	構成比 (%)	2019年 宿泊者数(万人) [B]	構成比 (%)	増減数 [B]-[A]	増減率(%)
中国	1,911	21.1	1754	28.8	157	9.0
台湾	1,154	12.8	823	13.5	331	40.2
米国	1,050	11.6	429	7.0	621	144.8
韓国	1,030	11.4	773	12.7	257	33.2
オーストラリア	387	4.3	183	3.0	204	111.5
香港	379	4.2	410	6.7	▲31	▲7.6
タイ	251	2.8	212	3.5	39	18.4
シンガポール	211	2.3	120	2.0	91	75.8
英国	191	2.1	97	1.6	94	96.9
カナダ	164	1.8	64	1.0	100	156.3
フランス	139	1.5	89	1.5	50	56.2
ドイツ	132	1.5	65	1.1	67	103.1
インドネシア	125	1.4	84	1.4	41	48.8
フィリピン	120	1.3	64	1.1	56	87.5
マレーシア	114	1.3	72	1.2	42	58.3
イタリア	103	1.1	49	0.8	54	110.2
⋮			⋮			
インバウンド全体	9,050		6,093		2,957	48.5

【データ】観光庁「宿泊旅行統計調査」※従業員が10人以上施設の集計。

【三重県】の国・地域別延べ宿泊者数(2025年、2019年 1~7月)

三重県

○中国のほか、タイ・香港などで減少。一方、欧州を中心に回復している国もある。

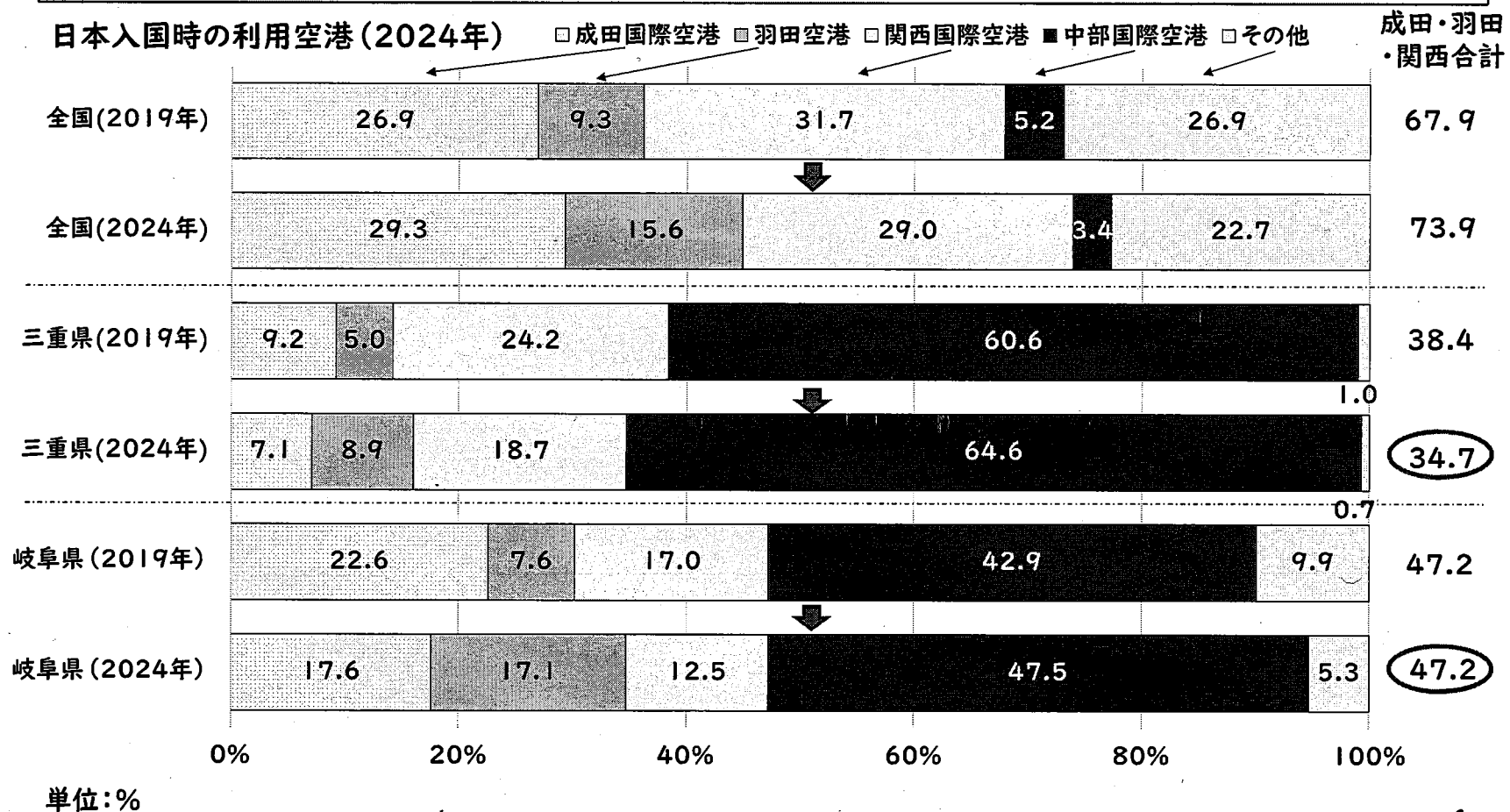
全国	2025年 宿泊者数(人) [A]	構成比 (%)	2019年 宿泊者数(人) [B]	構成比 (%)	増減数 [B]-[A]	増減率(%)
中国	35,740	21.0	94,530	44.0	▲58,790	▲62.2
台湾	25,550	15.0	21,690	10.1	3,860	17.8
韓国	23,460	13.8	17,510	8.2	5,950	34.0
香港	10,120	5.9	15,880	7.4	▲5,760	▲36.3
アメリカ	7,930	4.7	6,910	3.2	1,020	14.8
タイ	5,550	3.3	19,140	8.9	▲13,590	▲71.0
ドイツ	5,550	3.3	2,180	1.0	3,370	154.6
シンガポール	3,780	2.2	1,780	0.8	2,000	112.4
フランス	3,730	2.2	3,550	1.7	180	5.1
イギリス	3,390	2.0	1,640	0.8	1,750	106.7
マレーシア	3,180	1.9	4,770	2.2	▲1,590	▲33.3
イタリア	2,320	1.4	1,400	0.7	920	65.8
フィリピン	2,260	1.3	2,420	1.1	▲160	▲6.7
オーストラリア	2,200	1.3	1,530	0.7	670	43.8
ベトナム	2,310	1.3	3,130	1.5	▲1,000	▲31.9
カナダ	1,620	1.0	1,090	0.5	540	49.5
⋮			⋮			
インバウンド全体	170,240		214,630		▲44,390	▲20.7

【データ】観光庁「宿泊旅行統計調査」※従業員が10人以上施設の集計。

空港別の利用割合

○全国では、成田国際空港、羽田空港、関西国際空港で70%を超える一方、中部国際空港は3.4%と少ない。

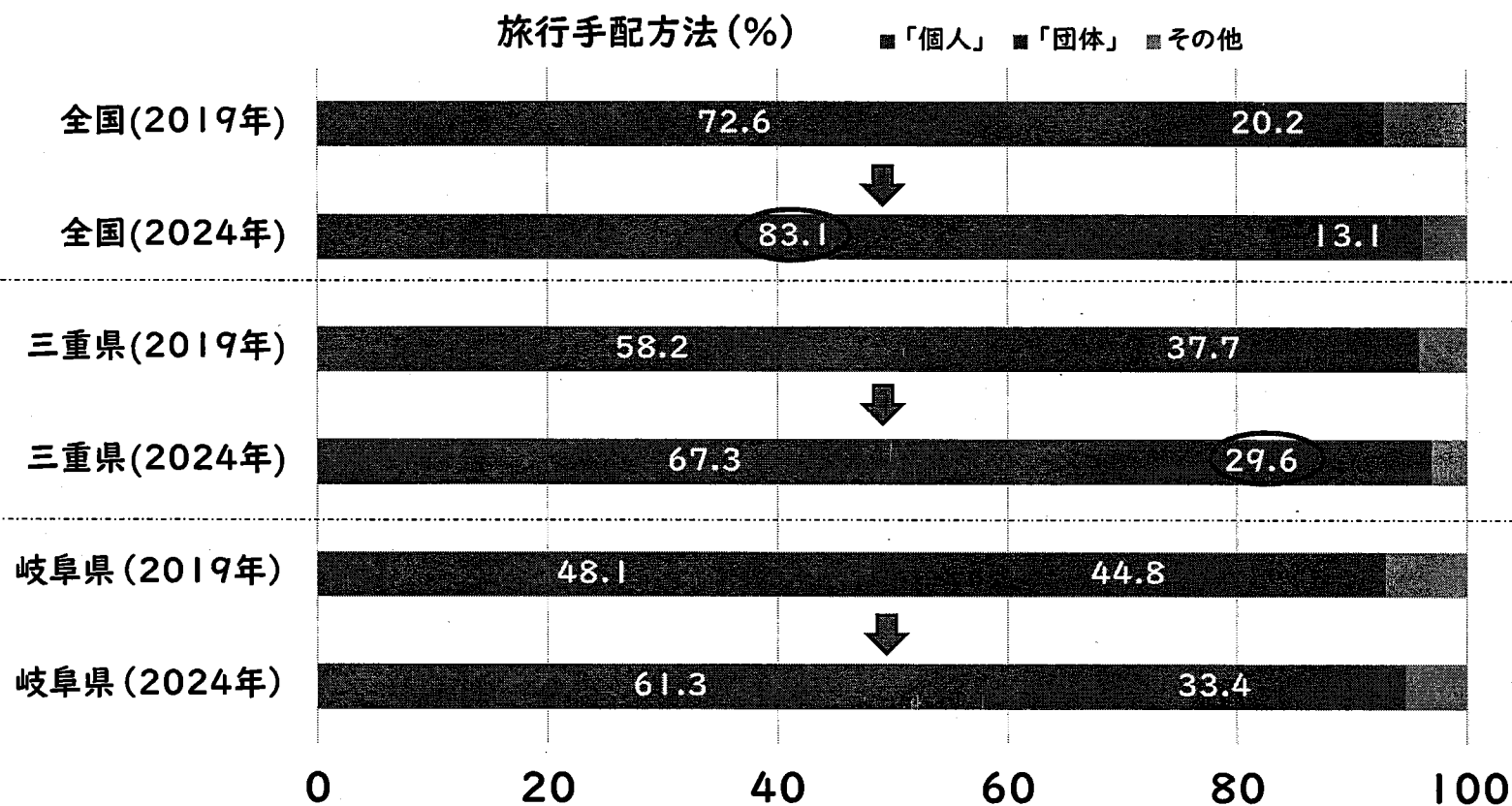
○本県は中部国際空港が約65%となっている。



【データ】
観光庁「インバウンド消費動向調査2024年【一般客（観光・レジャー目的）】 全国は参考4、三重県・岐阜県は参考12より作成。

旅行手配方法

- 全国平均では個人手配の割合が高まっており8割を超えている。
- 本県においても個人手配の割合は高まっているが、団体の割合が全国平均よりも高く、約30%を占める。

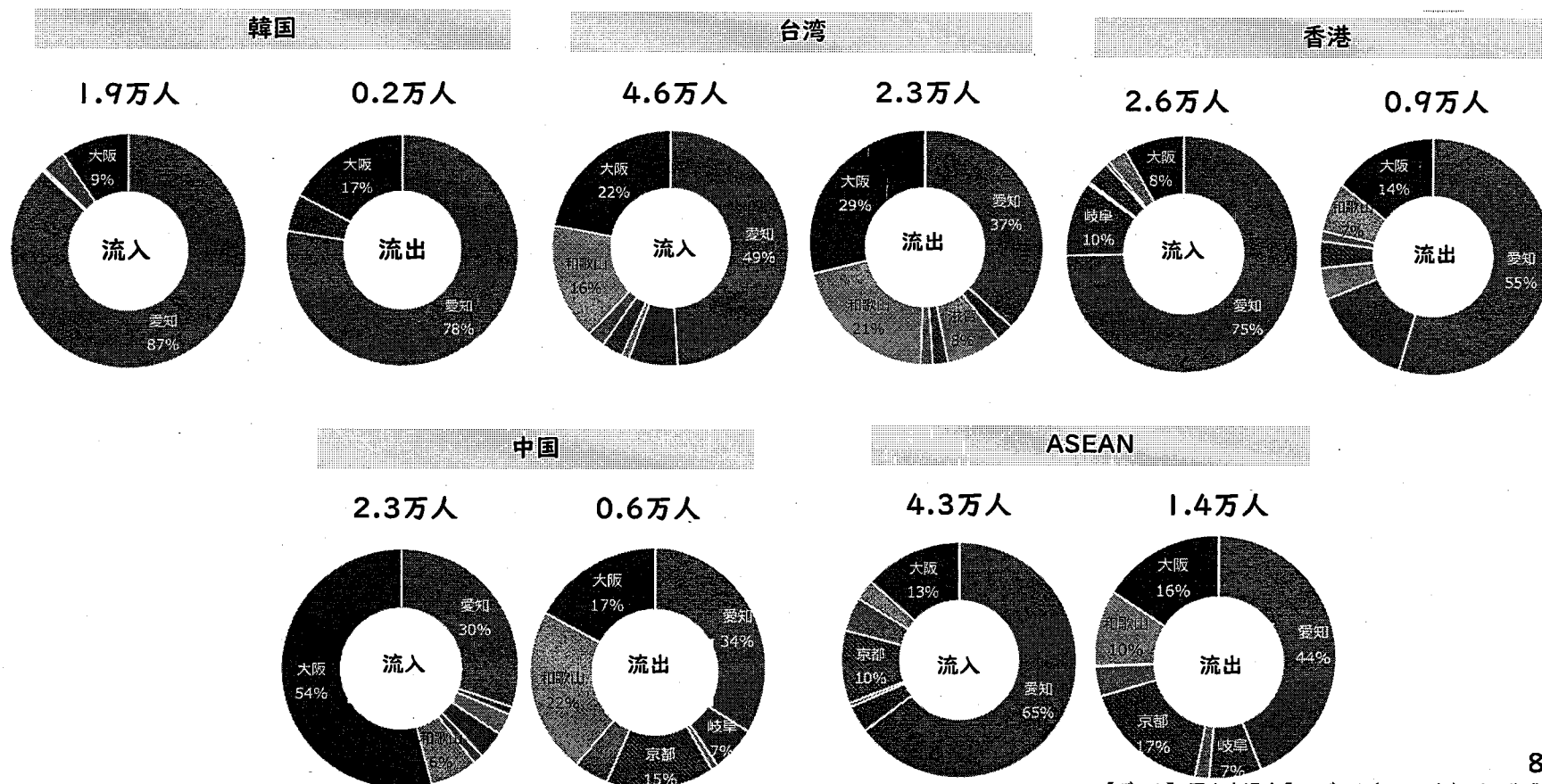
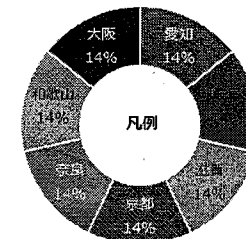


【データ】

観光庁「インバウンド消費動向調査2019年、2024年」【観光・レジャー目的】
全国は参考4、三重県は参考12。全国は実人数、三重県、岐阜県は延べ人数。

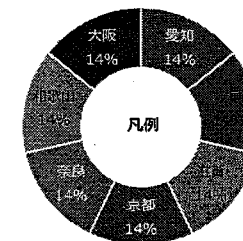
三重県への流出入ルート(国・地域別 アジア)

- 韓国は流出入とも愛知県が大半を占めている。
- 台湾や中国は関西圏からの流入が愛知県からよりも多い。



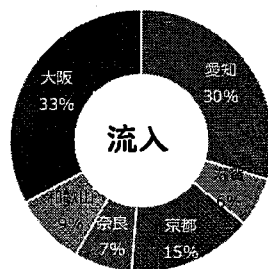
三重県への流出入ルート(国・地域別 欧米豪)

○欧米豪は京都や大阪、和歌山などの関西圏からの流入が多い。

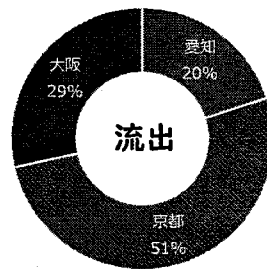


北アメリカ

0.7万人

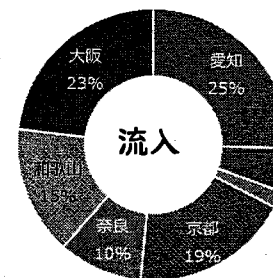


0.4万人

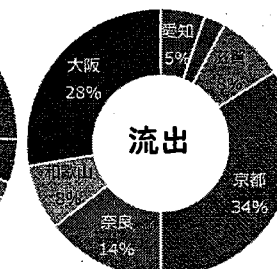


ヨーロッパ

1.0万人

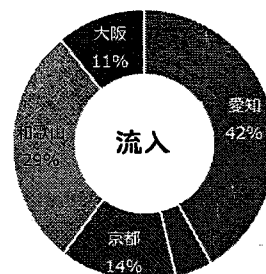


0.6万人

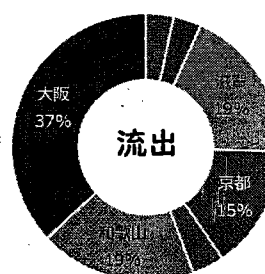


オセアニア

0.4万人



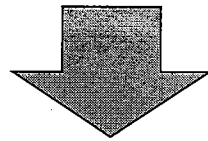
0.2万人



【データ】国土交通省「FFデータ(2023年)」より作成

三重県の推計延べ宿泊者数の試算

本県の国内旅行者は、令和15(2033)年に神宮式年遷宮を迎えるなど増加が期待される一方、人口減少が進む中、長期的には国内旅行市場は縮小することが想定されることから、インバウンドの増加に向けた取組に一層注力する必要がある。



オーバーツーリズムを回避する視点から、仮に、日本人延べ宿泊者数を維持したうえで、客室稼働率の向上によりインバウンドの受け入れを進めるとした場合、目標とすべき外国人延べ宿泊者数はどの程度の水準か、試算を行う。

客室稼働率別の外国人延べ宿泊者数(試算)

○仮に、日本人延べ宿泊者数を維持したうえで、外国人延べ宿泊者数を現在の約4倍にあたる100万人を目指すとした場合、客室稼働率は現在より約5ポイント高い約57%程度と試算される。

一方で、本県は旅館の比率が高く、データでは旅館の客室稼働率はホテルより低い。

目標とすべき外国人延べ宿泊者数と客室稼働率の水準について、ご意見を賜りたい。

客室稼働率別の外国人延べ宿泊者数(試算)

(参考) 宿泊施設タイプ別客室数別割合・客室稼働率(2024年) (%)

		延べ 宿泊者数 (万人)	日本人延べ 宿泊者数 (万人)	外国人延べ 宿泊者数 (万人)	延べ宿泊者の 外国人比率 (%)		客室数別 割合		客室稼働率	
							三重	全国	三重	全国
客室稼働率	52.4%	837	813	24	2.9	旅館	20.1	9.7	36.0	36.1
	55.0%	877	813	64	7.3	リゾート ホテル	16.2	8.7	52.2	54.1
	57.5%	917	813	104	11.3	ビジネス ホテル	56.9	60.5	67.3	73.7
	60.0%	957	813	144	15.0	シティ ホテル	3.5	15.7	66.7	72.3

(参考)

延べ宿泊者数の外国人比率(2024年)

○滋賀 6.9% ○長野 11.6% ○和歌山 15.7% ○地方部平均 10.6% ○全国 25.0%

本県インバウンド施策の課題（案）

近年、体制の充実や予算の拡充をし、取組を強化しているところであるが、さらなる誘客に向けて、どのような課題が考えられるか、ご意見を賜りたい。

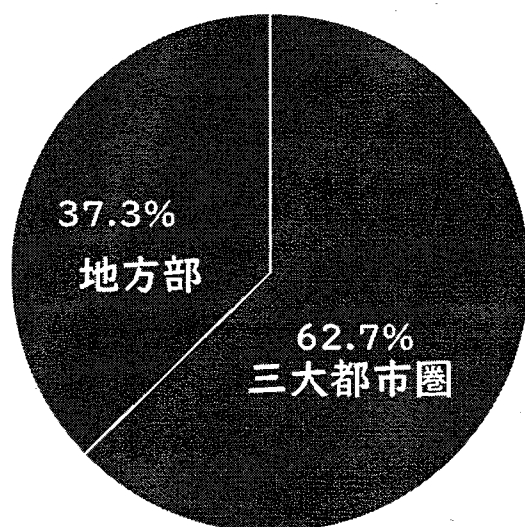
さらなる誘客に向けた本県インバウンドの課題（案）

- ① 中部国際空港から入国する旅行者だけではなく、ゴールデンルートを周遊する旅行者など、関空や成田・羽田から入国する旅行者の取り込みが不十分
- ② 海外での認知度（観光地、本県へのアクセス）が低い
- ③ 宿泊施設や二次交通などの受入体制（観光インフラ）の整備が不十分
- ④ 対象とする国・地域ごとに戦術が定まっていない
- ⑤ 取組を継続することが必要

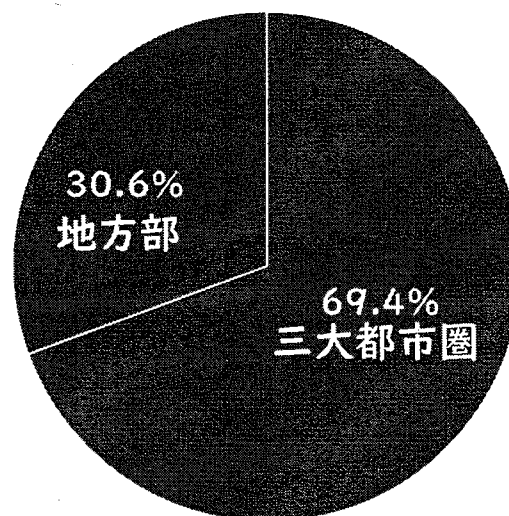
課題① ゴールデンルートを周遊する旅行者の取り込みが不十分

○ 外国人延べ宿泊者数は現在、ゴールデンルートに含まれる三大都市圏へ集中しているが、地方への訪問意向も強い。

外国人延べ宿泊者数
(2019年)



外国人延べ宿泊者数
(2024年)



国・地域別
地方訪問意向率

国・地域名	訪問希望率
台湾	92.9%
タイ	89.9%
香港	87.6%
アメリカ	66.5%
フランス	59.5%

【データ】
JNTO「VJ重点市場基礎調査」(2023年)

三大都市圏 東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県、愛知県、大阪府、京都府、兵庫県
地方部 三大都市圏以外

課題① ゴールデンルートを周遊する旅行者の取り込みが不十分

○関西国際空港は中部国際空港と比べ、就航都市数は約2.5倍、便数は4.5倍、入国者数は約6倍の差がある。

中空と関空の就航都市数、便数

2025年夏ダイヤ(中部国際空港は10月現在)

		中部国際空港		関西国際空港	
		就航都市数(市)	便数(便)	就航都市数(市)	便数(便)
就航エリア	韓国	3	91	5	377
	台湾	3	44	2	130
	香港 (マカオ含む)	1	35	2	146
	中国	10	91	30	570
	東南アジア	5	57	9	189
	欧州	1	3	5	26
	北アメリカ (ハワイ含む)	1	7	5	35
	オセアニア (グアム含む)	1	5	4	25
	その他	0	0	4	19
	合計	25	333	66	1,517

空港別入国者数(外国人)

(万人)

	中部国際空港	関西国際空港
入国者数	154.6	945.8

【データ】 出入国在留管理庁「出入国管理統計」より作成。

課題② 海外での認知度(観光地、本県へのアクセス)が低い

○訪日外国人を対象にした都道府県別の認知度に関する調査において、三重県の認知度は28.4%の45位で最下位であった。

訪日外国人 都道府県認知度ランキング(2019年)

(N=6,000)

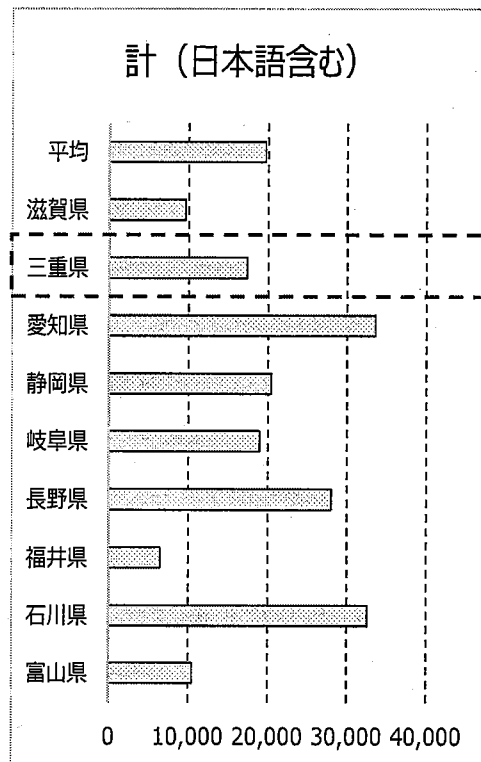
順位	都道府県	認知度(%)	順位	都道府県	認知度(%)	順位	都道府県	認知度(%)	順位	都道府県	認知度(%)
1	東京都	64.0	13	愛知県	38.7	25	埼玉県	32.8	37	高知県	30.3
2	大阪府	59.8	14	静岡県	36.6	26	鳥取県	32.6	38	茨城県	30.2
3	北海道	56.2	14	鹿児島県	36.6	27	岡山県	32.2	39	大分県	30.1
4	京都府	53.6	16	長野県	36.1	28	新潟県	32.1	40	群馬県	30.0
5	沖縄県	50.1	17	兵庫県	35.8	29	石川県	32.0	41	滋賀県	29.6
6	広島県	49.3	18	熊本県	35.6	30	山口県	31.8	42	栃木県	29.5
7	千葉県	45.7	19	山梨県	35.4	30	香川県	31.8	43	岩手県	29.3
8	福岡県	43.7	20	宮崎県	34.5	32	岐阜県	31.5	44	島根県	28.6
9	長崎県	43.4	21	宮城県	33.9	33	山形県	31.4	45	福井県	28.4
10	神奈川県	42.3	22	富山県	33.2	34	和歌山県	31.0	45	三重県	28.4
11	福島県	41.4	23	青森県	33.1	35	佐賀県	30.5	45	愛媛県	28.4
12	奈良県	41.3	24	秋田県	33.0	36	徳島県	30.4			

【データ】JTB「訪日重点15カ国調査2019」

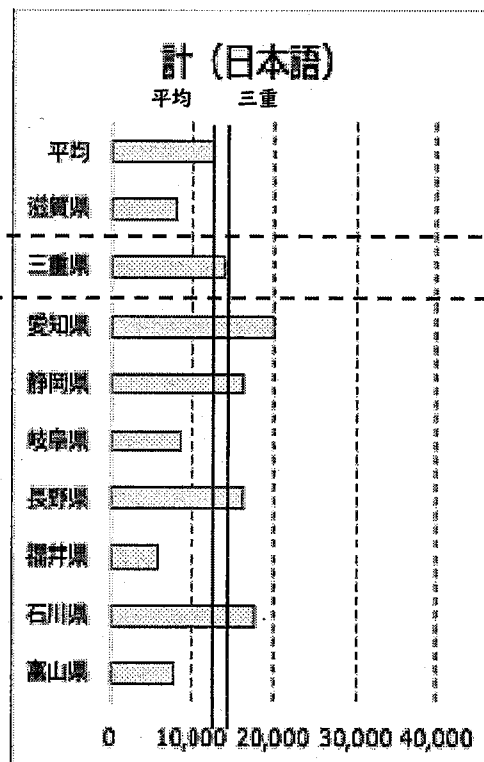
課題② 海外での認知度(観光地、本県へのアクセス)が低い

○口コミサイトへの投稿数をみると、日本語(日本人)による口コミ件数は中部エリアの平均数より多いが、外国語の口コミ数は平均よりも低い。

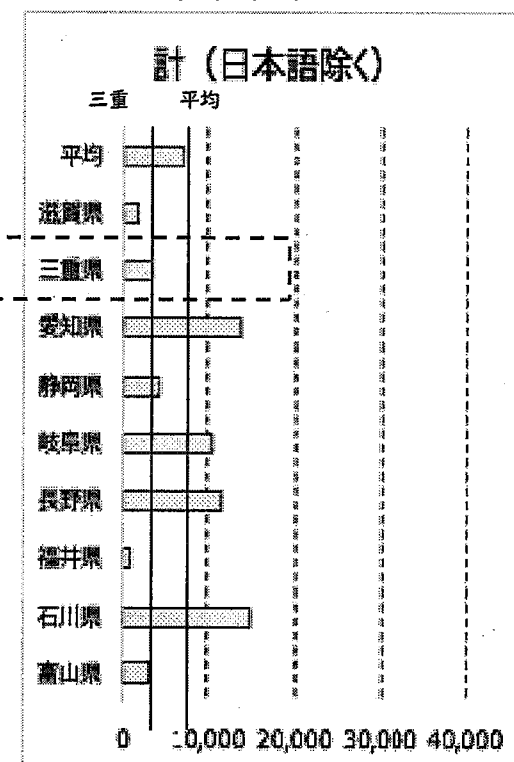
トリップアドバイザーに投稿
された口コミ数
(県別、全言語)



トリップアドバイザーに投稿
された口コミ数
(県別、日本語)



トリップアドバイザーに投稿
された口コミ数
(県別、日本語除く)

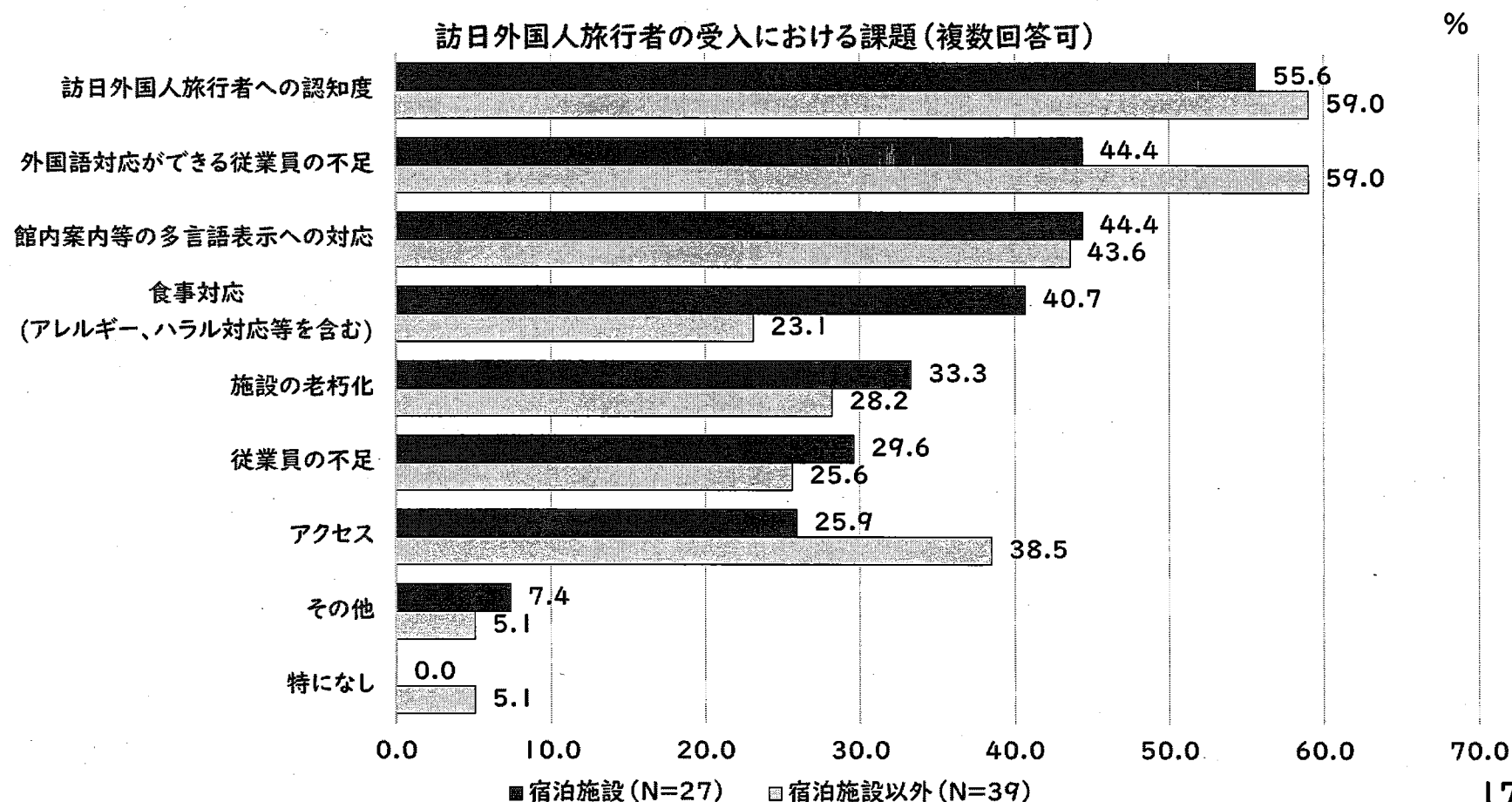


【データ】中央日本観光データプラットフォーム「グローバル口コミサイト投稿データ」より作成

課題③ 宿泊施設や二次交通などの受入体制（観光インフラ）の整備が不十分

○宿泊施設、宿泊施設以外（飲食店、体験施設など）ともに「訪日外国人旅行者への認知度」や「外国語対応ができる従業員の不足」、「館内案内等の多言語表示への対応」を課題とする割合が高い。

県内観光関係者へのアンケート調査



課題③ 宿泊施設や二次交通などの受入体制（観光インフラ）の整備が不十分

○県内観光者へのヒアリング調査において、「県内へのアクセスの認知度不足」や「アクセスの悪さ」が課題として指摘されている。

県内観光関係者へのヒアリングより抜粋

- 地域の受入れ課題としてアクセスが不便である。都心や大阪、京都から県内へのアクセス、また県内を訪れてからの二次交通のいずれも不便である。
- イベントなどを開催しても名古屋からのアクセスが「分からない」という理由でのキャンセルが複数ある。
- 市内の二次交通が弱いため、まちなかしか滞在できず、郊外まで周遊することができない。
- レンタカーであれば来ることはできる。
- 施設まで来るアクセス手段の一つであるタクシーがキャッシュレスに対応していないなど、施設の周辺環境の整備も必要であると感じている。

課題④⑤ インバウンド先進地へのヒアリングまとめ①

自治体名	主な取組	
徳島県	○アジアでは認知度を高めるために、各国のインフルエンサーを活用した情報発信を行い、ある程度認知度が高まった状態でセールスをすることで成果が出ている。 ○インフルエンサーへ依頼する際は、1人の著名なインフルエンサーよりも幅広い分野で多数のインフルエンサーへ依頼した方が効果的である。	効果的な 情報発信
岡山県	○主にアジア地域で農林担当と連携し、果物の輸出を絡めた観光プロモーションを20年近く継続しており、外国人旅行者の来県時に果物狩りコンテンツの体験に繋がっている。 ○欧米市場は東京から入国することが多いことより、東京からの誘客が重要だと考えており、東京都と連携して羽田空港等で誘客取組をしている。 ○オーバーツーリズム対策として多言語サイトによるマナー啓発をしている。	観光と食で 連携したPR 東京からの誘客
高山市	○30年以上にわたり、インバウンドの取組を継続して実施している。 ○インバウンドの取組は民間ベースで進んでおり、行政は観光ホームページの多言語化や看板の多言語化などハード面でのサポートを行っている。 ○高山の強みは「日常生活を送る市民との距離の近さ」であり、この魅力が口コミで広がり、多くの訪問に繋がっていると考え。この強みを守るため、市民に向けたインバウンドに関する情報発信にも注力しており、「外国から選ばれる高山」がシビックプライドの醸成に繋がるよう意識している。	多言語整備 市民生活との 調和
石川県	○2006年から継続してインバウンド誘客に取り組んでいる。 ○北陸新幹線金沢開業を機に、北陸信越運輸局、JR西・東、北陸新幹線沿線自治体と連携し欧米豪市場へ「新ゴールデンルート」というテーマで訴求。 ○オーストラリア、アメリカ、イギリス、フランスに観光レップを配置し、誘客活動を行ったことで新ゴールデンルートが浸透し、コロナ前からのインバウンド回復に繋がっている。 ○石川県は、東京から京都へ抜ける途中にあり、地理的に有利な部分がある。白川郷や立山黒部へ行く観光拠点として最適で、公共交通では訪問が難しい場所も周遊できるようレンタカーを活用したモデルルートの造成、PRを行っている。	継続した取組 ゴールデンルート からの誘客

課題④⑤ インバウンド先進地へのヒアリングまとめ②

自治体名	主な取組	
長野県 (長野県観光機構)	○観光部は2006年に発足し、国際観光推進室は2011年に設置。 ○長野県と新潟県でスノーリゾートアライアンス(スキー場の集まり)を結んでおり、毎年5月のオーストラリアの商談会に出展しており、10年かけて地道に継続して取り組んできたことから現地での定着がみられるなど、手ごたえを感じている。 ○東アジア市場はデジタルプロモーションを中心に最新の情報を定期的に発信、欧米豪市場は、現地レップによるリアルでの営業・現地発信を行い、認知度向上を図っている。	→ - 継続した取組 - 広域連携 - 市場に応じたPR
香川県	○2014年に国際観光Gから国際観光推進室へ格上げ ○瀬戸内芸術祭の事務局と連携し、県内の観光コンテンツやグルメ、アクセス等の情報発信を積極的に行い、大規模イベントで来県した外国人旅行者が県内周遊へ繋がる取組を実施。 ○せとうちDMOや四国ツーリズム創造機構と連携し、広域周遊を目指したプロモーションを実施。	→ 大規模イベントを絡めた誘客
広島県 (広島県観光連盟)	○インバウンド誘客は1993年(広島空港開港)より前から実施している。 ○ゴールデンルートからの誘客を重要視し、鉄道・航空会社と積極的に連携して、東京からのアクセスを含めたプロモーションを展開。 ○アジア市場は広島空港と連携したプロモーション、欧米市場は航空会社やJRと連携したプロモーションと取組手法を変えている。 ○広島は関西圏から日帰り圏内であるため、早朝や夜のコンテンツ造成に注力しており、宿泊者数の増加に向けた取組を実施。	→ - 継続した取組 - ゴールデンルートからの誘客 - 市場に応じたPR
姫路市	○姫路城の入場料について「市民」と「市民以外」で二重価格を設定し、将来にわたり維持管理に必要な費用等を収集している。 ○兵庫県やJR西日本、西のゴールデンルート等と連携して広域でのプロモーションを実施。	→ オーバーツーリズム対策